

市議会議員
かけのまち子



市議会議員
みわ 陽子



No.558 2024.9.12
日本共産党江南市委員会

あすの江南

電話/Fax 53-7727
kakenom@xj.commuja.jp

電話/Fax 54-6712
yokko0520mi@yahoo.co.jp

元市議 森ケイ子 電話/Fax 57-2753
元市議 東よしき 電話/Fax 54-7977

* 困り事は早めにお気軽にご相談ください

日本共産党江南市議員団 HP 検索

9月議会
一般質問

水道の広域化ストップ 自己水源を守れ 広域化検討体制から離脱を



かけのまち子議員



2018年改正の水道法は、県が主導して水道の広域連携と民営化を推進する内容です。

改正水道法に基づき、愛知県は2023年3月、水道広域化推進プランを策定。県内を名古屋市と西尾張・東尾張・西三河・東三河の4ブロックに分け、愛知地域1水道を目指し段階的に広域化する計画です。江南市は西尾張ブロックに参加してきました。(上図参照)

貴重な自己水源の廃止と全面的な県水受水への切り替え、具体的には市の配水場・ポンプ場を廃止して県水を直結配水する統廃合、管理の一体

化など人員体制の見直しが想定されています。

これでは、ダムをつくりすぎて余っている高い県営水道の水を、貴重な自己水源を廃止してまで買わされることとなります。

身近にある井戸・自己水源は、大災害時、長期間の断水を防ぐために大切です。広域化した長い導水管が壊れれば、復旧にも時間がかかります。大災害時においても、命の水を市民に安定的に供給し続けるために広域化は避けるべきだと市の対応を質し、早めに広域化ブロック検討体制から離脱するよう求めました。

市当局は「広域化にむけて、施設や維持管理の共同化などできるところから連携し、段階的に進めることとしているが、具体的な合意形成は進んでいない。広域化のメリットとして、専門職の確保、広域的な支援体制による災害対応能力の強化があるが、江南市の配水場等の廃止は困難と考える。

現時点では、情報収集したり、災害時の協力体制を保つため、広域化研究会議からの離脱は考えていない」と答弁しました。

江南市議会公式YouTube



党議員団の一般質問は9月4日の、かけの議員は午前、三輪議員は午後の配信で、ご覧いただけます。

外国の方への支援の充実を

窓口の支援体制

外国の方が10年前から1000人ほど増えて2500人ほどになっています。窓口対応の通訳の方が1日4時間程度の勤務になっているので、その時間を増やし、待遇も改善できないかと質しました。

「外国の方が増加傾向にある中、通訳を必要とする場面が全庁的にどのくらいあるかを把握し適切な人員体制にする」との答弁でした。

子どもたちと保護者にたいする支援

市内で日本語指導を必要とする子ども達が小学生80人、中学生29人いることがわかり、その支援を質しました。

「県から小学校に3人、中学校に2人の日本語教育適応学級担当教員が加配配置されている。小学校は古東、宮田、藤里に1人ずつ、中学校は宮田に2人配置し、週1時間から6時間指導を行い、他の学校へも巡回指導している。

また学校以外でも国際交流協会の自主事業として、「子ども塾」を開催。毎週火曜日と

木曜日の週2回「ふくらの家」と「藤里小国際ルーム」において学習支援や日本の学校に入る前のプレスクールも行われている」との答弁でした。

入学説明会、宿泊研修、進路説明会など学校行事や日々の保護者へのおたよりなどでは県から派遣されている語学相談員の方に翻訳していただいたり、国際交流協会の方に助けていただいたりしていることがわかりました。

近年増えているベトナムや中国の方に対応できる人を置いてほしいとの、学校からの要望を伝えました。

防災対策について

近年多発している災害の情報を外国の方にどのように知らせていて今後どのようにしていくのかを質しました。

「防災ハンドブックで多言語対応の通知についてお知らせをしており、今後は安心安全メールの多言語対応について検討している」との答弁でした。



みわ 陽子議員

